



学校兼シェルター 引き渡し式典の様子 (ミャンマー)
Handing-over ceremony of school cum shelter (Myanmar)

Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「つながる基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

● Table of Contents Vol.67 (Nov., Dec. 2018)

- ・ Bangladesh : Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh
- ・ India : Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi
- ・ Myanmar : Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township
- ・ Philippines : Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- ・ Japan : Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project
- ・ Delivery Lecture
- ・ Announcement



特定非営利活動法人SEEDS Asia

〒658-0072

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel : 078-766-9412

Fax : 078-766-9413

Email : rep@seedsasia.org

Web : www.seedsasia.org

Facebook : <https://www.facebook.com/SEEDS-Asia-206338119398923/>



バングラデシュ

バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業

【JICA草の根技術協力事業】

北ダッカ市住民の災害対応能力の向上を目指し、コミュニティにおける防災活動を促進しています。

●若者による防災活動が地域を動かす！

SEEDS Asiaが活動をするコミュニティのひとつに、高校生や大学生を中心としたユースクラブがあります。北ダッカ市第17区カーパラ地区にあるこのユースクラブは、地域の若者の薬物問題に立ち向かうため2013年に結成され、スポーツ大会の開催や地域のモスクの清掃といった活動を行っています。2017年よりSEEDS Asiaと共に防災活動に取り組んでおり、まち歩きや防災をテーマとした討論大会、緊急連絡先を記載した掲示板の設置等の活動を展開してきました。こうした活動を通して、地域住民の間での彼らの認知度はこれまで以上に高まりました。

ユースクラブの代表は、自主社会福祉グループを母体とする他の防災コミュニティとも積極的に交流を行い、他コミュニティが抱える地域の問題や対応策、グループの登録制度や運営について学んできました。そこから、他コミュニティに習い、地域の大人たちを巻き込んだ住民グループを組織するよう、地域のリーダーに働きかけてきました。防災活動を通じたユースクラブの活躍を見たリーダーたちは彼らの提案に賛同し、より住みやすい地域づくりに寄与するために、カーパラソサイエティを結成する運びとなりました。まずは地域のゴミ収集問題から取り組んでいます。また、カーパラソサイエティは、ソサイエティとして地域の様々な課題に取り組んでいくとともに、防災を含むユースクラブの活動をサポートしていく計画です。本件は、ユースクラブによる防災活動をきっかけに地域がまとまり、さらに活性化する大変良いケースとなりました。



カーパラ地区のユースクラブ

●モデルコミュニティによる防災活動と新しい防災コミュニティの誕生



まち歩き後のマップ作りをする新コミュニティ(コルランブルコミュニティ)

2017年6月に実施した防災リーダー研修以降、モデルコミュニティは自分たちの現状とニーズに沿った活動計画を策定し、実行に移してきました。モデルコミュニティのひとつである北ダッカ市第27区内のモニプリパラコミュニティでは、地域内に多くのレストランや屋台があり四六時中ガスを使っていることから、空気が乾燥するこの時期、オーナーや従業員向けに防火と消火の研修を実施しています。小規模経営で店を空けることが難しいオーナーらのために、防災リーダー自らが現場に出向き重要ポイントを伝える出張型防災研修です。研修後、自主的に消火器を購入するオーナーが現れるなど、防災意識の向上に大きな役割を果たしています。また、第21区のバツダコミュニティでは、地域住民の憩いの場であるモスクにて、金曜日の礼拝後、手作りの防災啓発リーフレットを配布しています。このように、北ダッカ

市の防災コミュニティは、それぞれの地域に合った活動を工夫して実施しています。

そんな中、新たに二つのコミュニティが防災コミュニティとして加わりました！ひとつは、モデルコミュニティの活動を見て興味を持った第11区コルランブル地区の住民グループ、もうひとつは、SEEDS Asiaが作成を支援し、7月に発行された北ダッカ市の広報誌『Nagoria』を見てコミュニティ防災について知った第1区ウットラ地区のマンションオーナーのグループです。前者は、1991年に地域の防犯のため設立され昔からお互いをよく知っているコミュニティで、自主的に声を掛け合って集まった若者層が中心となって防災活動を実施していく予定です。後者は、ダッカ郊外に新しく開発されたベッドタウンのマンションに入居した人々による新しいコミュニティで、今後さらに入居者が増えていくにあたり、マンション火災を起こさせないため、火事ゼロコミュニティ宣言をして住民向けに意識啓発と研修を実施していく計画です。地域性の異なるコミュニティが加わり、北ダッカ市のコミュニティ防災の更なる盛り上がり期待されます。

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教材開発や防災活動の拠点づくりなどの取り組みを通じて、市民の防災意識の向上を目指します。

●防災キャンペーン、防災研修実施！

11月から12月にかけては防災キャンペーンと防災研修をバラナシ市内で実施しました。キャンペーンでは防災の基本概念や国家対応部隊（NDRF）による簡単な実践研修とともに事業で開発したアプリや12月に完成した市民防災活動推進センター（DRR-CAP）の紹介をしました。クライメイトスクール（CS）を会場に、保護者や地域住民、これまで研修に参加できなかった教員や生徒たちが参加し、熱心に耳を傾けてくれました。また、各CSではこれまでの取り組みや本邦研修での学びについても発表され、アトウラナンド校では「京都で学んだこと」として、日本の小学生による迅速な避難訓練の様子や、毎日掃除の時間が設けられていること、入学と共に朝顔を育てる体験をすることなどが発表され、保護者や学校の管理者も強い関心を示し、同校では入学と共に植物を育てることを決定しました。さらに、本邦研修中に約束した活動計画①校舎内に防災コーナーを設置、②ごみの分別の開始、③保護者や地域を巻き込んだ防災教育の実施、の3つが無事に達成されたことが報告されました。

一方、市民向けの防災研修として、①DLW(インド国鉄のディーゼル機関車製造工場)の職員およびその家族向け、②バラナシサンシャインロータリークラブメンバー向け、③50校の私立学校の校長及び教員向け、にそれぞれ研修をNDRFと共催で実施しました。NDRFから心肺蘇生法などの実践的な研修とSEEDS Asiaから防災の基本概念とともにバラナシで深刻な事態となっている大気汚染の研修をしました。加えて、専業主婦の参加者が多かったDLW向け研修では、女性と災害についての研修を行いました。女性と災害については、バラナシ市と京都市のパートナーシティ提携に向けた合意書(2014年)に関連し、京都市消防局の研修で頂いた「安心アドバイザー」や防火指導チェック表などを参考にしてインドの台所の様子を見せながら防火のポイントなども紹介しました。

●市民防災活動推進センター（DRR-CAP）の完成と最終ワークショップ開催！

12月20日、バラナシ市にて3年間にわたり実施してきたコミュニティ防災と防災教育事業の最終ワークショップが開催されました。これまで熱心に関わってくださったコミュニティや学校、市民防災大使、国家災害対応部隊の方々に参加いただき、3年間の成果を振り返るとともに、防災の重要性を再確認しました。チーフゲストとして、ウッタルプラデシュ州防災局のサヒ副局長、および日本大使館の清瀬参事官にご出席いただきました。同日、正式にオープンしたDRR-CAPを視察されたサヒ副局長は、センターの展示に非常に興味を持たれ、展示してあった防災情報・啓発ポスターをウッタルプラデシュ州で広く使用したいとおっしゃってくださいました。DRR-CAPの最大の目玉はバラナシ市の立体モデルです。今後、NDRFとバラナシ県が協力し、このモデル上に災害時の避難場所や災害時に利用できる場所などを表示する取り組みを計画しています。DRR-CAPを使って学校の生徒や市民のみなさんが防災を楽しく学んでもらえるよう、NDRFが研修プログラムに取り入れてくれる予定です。



DRR-CAPオープン当日の視察の様子

●デリーにて最終ワークショップ実施！



最終報告会にて、P.K.ミシュラ氏（右）と平松大使（左）

12月21日、デリーにて3年間の活動報告をするワークショップを開催しました。ワークショップには、インド首相府からP.K.ミシュラ氏、在インド日本国大使館から平松大使にご出席いただき、コミュニティ防災の重要性、インドの防災への取り組み、日本からインドへの防災支援などについてお言葉をいただきました。バラナシからは、市民を代表してバラナシクラブのアシュール・カルラ氏がご自身の防災の取り組みを発表、また、NDRFのアロック・シン第11部隊隊長からはバラナシの防災を取り巻く環境とNDRFの取り組みについて発表されました。最後に、国家防災委員会（NDMA）カマル・キショー氏から、バラナシでの取り組みの感想と今後への期待のお言葉をいただき、無事ワークショップは終了しました。

3年間続いた本事業も1月14日を以て終了いたします。この場をお借りして、事業開始時から多くのご協力とご支援をいただきました在インド日本国大使館の皆様をはじめ、関係者の皆様にご心よりお礼申し上げます。



ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

●学校兼シェルター完工、引き渡し式典の開催

ヒンタダ地区のナバーゴン小学校兼シェルターが完成し、12月16日に引き渡し式典を行いました。会場には、エヤワディ地域・区内の政府関係者要人が集まり、ご祝辞を賜りました。在ミャンマー日本国大使館からは岩瀬二等書記官にご出席いただき、ご挨拶を頂きました。式典では11月に撮影した丹波市の青垣小学校からのビデオメッセージを上映し、寄贈された100台の机や椅子、5枚の黒板についても紹介しました。開所記念のリボンカットでは、大きな拍手と共に色とりどりの風船が空に舞い上がり、会場は大きな歓声と共に喜びに包まれました。最後に、校長先生や村長から感謝の言葉が述べられ、児童を代表してイエーティココさん（4年生）から国内外からご支援頂いた方々へのお礼が述べられ、雨季の旧校舎は浸水して学校が閉鎖していたことや、新校舎ができたことの喜びを元気一杯に伝えてくれました。（リボンカットの様子と児童のスピーチは以下のリンクからご覧いただけます。<https://www.facebook.com/206338119398923/videos/1174851619336076/>）



引き渡し式典での集合写真

●第9回ワークショップ ～避難計画に向けた全世帯調査の実施と防災マップの完成～



村の防災マップ作成の様子

本事業で学校兼シェルターが建設され、洪水時の避難所ができたものの、スペースや物資は限られているのが現実です。そのため、第6回から8回ワークショップまでは、村の避難計画に関わる協議や避難所を想定した協議を重ねてきました。また、村の防災委員会メンバーとSEEDS Asiaスタッフがナバーゴン村全世帯を訪問し、世帯の詳細情報を確認入力した世帯カードを作成することで、避難時にサポートが必要な要援護者のいる世帯を避難優先世帯として村内で周知しておくこととしました。さらに、2015年と翌年の大洪水の記録や、浸水時の飲料水が確保できる場所、使用できるトイレ等、第2回で作成した防災マップに詳細な情報を盛り込み、村の防災マップがほぼ完成しました。

●第10回ワークショップ ～緊急時における教育の最低基準INEEとスフィア基準の共有～

ミャンマーは困った人が居たら助けあう、そんな互助精神が生きている国です。英国拠点のチャリティーエイド基金が毎年発表する世界の寄付指数(World Giving Index)でも、ミャンマーは2014年から2017年まで3年連続で世界第1位を保持してきました。実際に、ミャンマーで災害が起こると、国内から多くの寄付が集まり、ボランティアが駆け付けています。しかし、寄付者の「あげたいもの」を基準にした物資が集まると、支援物資の過剰な偏りや不足、需要と共有のミスマッチが発生するケースがあることも否めません。また、学校を避難所にする際には、教育機会の継続確保についても事前に計画を立てておかなければ、学校の再開が遅延する可能性があります。こうした問題を改善するため、スフィアと呼ばれる人道支援と人道対応に関する最低基準(スフィア)と、緊急時における教育基準(INEE)を紹介しました。スフィア基準は、誰かを支援するとき、寄付者の「あげたいもの」ではなく支援を必要とする人の「欲しいもの」について考え、支援するためのツールであり最低基準です。第10回ワークショップにおけるスフィア基準についての研修では、人道憲章の要点の他、4つの分野(給水・衛生・衛生促進、食料の確保と栄養、シェルターとノンフードアイテム、保健)に亘って、分かりやすいアニメーションビデオと資料を活用しながら理解を促進しました。さらに、緊急時における教育基準についての研修では、要素を学びながら実際に学校の教育継続計画を策定していくこととしました。参加者からは、「学校を避難所としたときの支援物資の分配の基準や、学校を避難所とすることの良い点と懸念点など、判断が難しい時に参考になると感じました」というコメントがありました。



フィリピン

セブ州における学校の防災管理推進支援事業

【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

●学校安全点検

平時の学校活動から災害時の影響を少なくするために、本事業では学校ごとに安全点検のマニュアルの作成を進めています。10、11月は、各パイロット校が自ら作成したチェックリストを用い、安全点検を行いました。各安全点検には、教育省防災管理コーディネーター、エンジニア、市町防災管理局、コミュニティ、警察、消防、PTAなどが参加し、様々な視点からの意見を交換することができました。点検後には、ステークホルダーとのチェックリストへの意見交換の場も設けられました。教育省防災管理コーディネーターからは、「建物の修繕が必要な場合もあるが、シンプルな安全対策は教員の手でできる」とのコメントがあり、日々の教員の取り組みが期待されます。また、これをもって2パイロット地区を除き、全ての地区でチェックリスト初版作成に向けた安全点検が完了しました。パイロット校は、それぞれの関係者から得た助言をもとにチェックリストを見直し、印刷に向けて初版の完成を目指しています。この安全点検の前に実施した安全点検導入会議、マニュアルワークショップ、マニュアル初稿批評会にて学んだことをもとに、各パイロット校が安全点検マニュアルの作成と修正を進めています。初版は、今後定期的な安全点検を行い、改善策を作成・実行していく際に用い、事業終了時には初版を改善した最終版を印刷する予定です。



ダアンバンタヤン町地区での学校安全点検

●年末評価企画会議



年末評価企画会議

12月13日に、セブ州防災管理局とともに年末評価企画会議をセブ市内にて行いました。教育省第7地方事務所と、本事業の10パイロット地域より、パイロット校、教育省地区事務所、地方自治体防災管理局の計約30名が参加しました。参加者は、今年の成果を発表、課題を共有し、来年に向けて改善すべきことを話し合いました。パイロット校からは、「ステークホルダーとの協力を進めるために、コミュニティの会議への参加や、各ステークホルダーの取り組みへの表彰や感謝状の授与を検討する」、教育省地区防災管理コーディネーターからは、「授業の邪魔にならないように、学校防災プログラムや活動を制度化したい」、地方自治体防災管理局は、「学校とのコミュニケーションをさらに円滑にするために、調整を図る」などの意見が出るなど、相互の更なる連携強化をもって学校防災管理を促進する意欲が示されました。

●教育省地区事務所長との会議

11月～12月にかけて、パイロット地区の各教育省地区事務所長に表敬訪問を行い、2019年度に実施予定の本邦研修の内容について相談しました。「県、市町、区、学校レベルでのインタビュー、フォーカスグループディスカッションをしたい」、「持続可能な取り組みのアイデアを得るために、兵庫県教育委員会と学校を訪問したい」、「兵庫県教育委員会がどう防災管理を確立させたか、プロセスが知りたい」などと、研修への意欲や期待のこもった要望をいただきました。これらの意見を参考に、本邦研修の旅程とプログラム内容を完成させる予定です。



ボゴ市地区教育省地区事務所長との会議



日本

丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業

【丹波市】

復興スタディツアーを通じ、豪雨災害からの教訓を伝え、丹波市の新たな“好流”を促進します。

●関西学院大学学生向けのスタディツアー実施

11月23日、関西学院大学の学生がゼミグループで丹波市を訪問して下さいました。学生の研究テーマは環境や観光で、さまざまな視点から丹波市の状況と学びをつなげられるようにとの担当教授の期待のもと、この訪問が実現しました。

午前中は、2014年8月の豪雨災害の被災農地で、被災後初めての小豆収穫を体験してもらいました。農作物の収穫作業を体験するのは初めてだという都会育ちの学生もいれば、「おばあちゃんの家で農作業を手伝っていたのを思い出した」という学生もいました。寒い中、たくさんの小豆が収穫できました！

午後には自治会全体で森林管理の取組みを実施している地域の自治会長にお話を伺いました。熱々の焼き芋と落花生を食べながら自治会の歴史などを伺うことは、貴重な経験となりました。また、自治会が参加している「丹波市木の駅プロジェクト」実行委員会のメンバーも同席して下さい、それぞれが森林管理の重要性に気付いたきっかけなどを共有して下さい、森林との関わりがより身近なものに感じられました。

ゼミを担当している教授は「次年度からは是非ゼミの学習プログラムに丹波市訪問を入れ込みたい。年間のゼミスケジュールの中にオリエンテーションなどを組み込めば、より充実した訪問になるはず」と積極的に提案をして下さいました。是非、より多くの学生に丹波市の良さを感じて欲しいと思います！



地産物を用いたランチについて説明をする地元の方

●丹波市スタディツアーの紹介ビデオ撮影

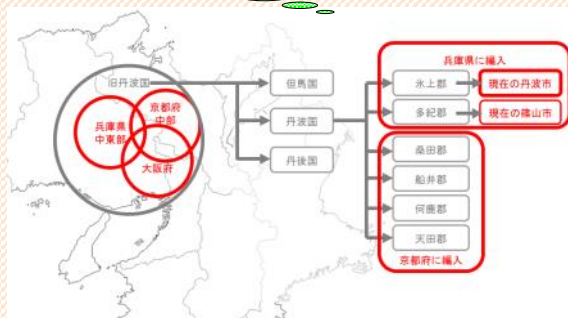
12月23日は小規模なスタディツアーを開催し、より多くの人に、スタディツアーの疑似体験をしてもらえるようビデオを撮影しました。この日は山歩きに加え、餅つきやしめ縄づくりといった年末シーズンにぴったりの活動を体験したため、冬の丹波を楽しむ様子が伝われば幸いです。

ビデオは下記リンクからご覧ください。

【山歩き編】 <https://youtu.be/4ndrGTBEzv4>

【もちつきとしめ縄編】 <https://www.youtube.com/watch?v=umK96HjPHzA>

丹波ってどこ？



SEEDS Asiaがともに活動をしているのは兵庫県丹波市の方々ですが、よく「丹波篠山なら行ったことがあるよ」や「京都府の地域ですよね」と言われることがあります。どちらも「丹波」で間違いではないのですが、兵庫県丹波市とは別の地域を示します。

丹波という地名は、かつてとても大きな国（丹波国：たんばのくに）を指し、現在の兵庫県中東部、京都府中部、大阪府の一部が含まれていました。この広大な地域は奈良時代に丹波、但馬、丹後の3国に分割され、分割後の「丹波国」も明治時代にはさらに一部が京都府、一部が兵庫県に編入されました。兵庫県に編入されたのが「多紀郡（たきぐん）」と「氷上郡（ひかみぐん）」の2つの群で、それぞれ、いわゆる「平成の大合併」で篠山市と丹波市になりました。

つまり、「丹波」という呼び名で該当する地域は広大です。2019年5月には篠山市が「丹波篠山市」に改名するという方針が打ち出されており、今後さらに「丹波」という名前を通じて、多様な文化や物品、サービスが発信されていくと考えられます。その中で丹波市ならではのよいところを知ってもらえるよう、スタディツアーを実施していきます。

兵庫県ホームページ https://web.pref.hyogo.lg.jp/tnk11/tanba/zatu_kuni.html（参照2019/1/22）

大丹波観光推進委員会事務局 「まるごと大丹波」 <http://marugoto-daitamba.jp/%E5%A4%A7%E4%B8%B9%E6%B3%A2%E3%81%A8%E3%81%AF/>（参照2019/1/22）

講師派遣

●神戸市立上野中学校「国際協力とは」

11月2日、神戸市立上野中学校にて3年生約180名の生徒を対象に、国際理解教育の授業の一環として「国際協力とは」をテーマに講演させていただきました。国際協力について初めて触れる生徒も多かったようで、「人のために海外に行ってくれている人がいるから、世界が成り立っているのだと思う。世界中に自国の事だけでなく、他国のことを考えられる人が増えればいいと思います。」、「国際協力について、もっと知りたいので個人的に調べてみたい。」、「自分も、日本を超えて世界で困っている人を助けたいです。」などと、好奇心や熱意溢れる感想を寄せてくださいました。このようにこれからの世界をつくっていく生徒たちと、世界の現状や国際協力について考える機会を持つことができ、大変光栄でした。神戸市立上野中学校様、この度はご招待いただき誠にありがとうございました。



神戸市立上野中学校での講演の様子

●「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」 in 宮城

11月22日、岩沼市民会館で実施された「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」の中のプログラム「ワイドビジョントーク～豊かな防災教育のために関係機関や世界とつながる～」で、SEEDS Asiaの活動紹介をしました。このフォーラムは、2015年度より毎年、宮城県教育委員会と東北大学災害科学国際研究所が共催しているもので、宮城県内の学校の先生方が防災教育についての知識や経験を共有する場となっています。今回は、アジアの国々の文化的・社会的な背景、災害に対する考え方や対応の仕方が日本とは違うこと、その中でSEEDS Asiaがアジアの国々の実情に応じた防災教育を展開していることを紹介しました。

●La Shicu社主催「ペットと避難どうする？ワークショップセミナー in 加古川」

11月24日、兵庫県加古川市でペット用品やミャンマー雑貨の輸入販売を行うLa Shicu社主催による「ペットと避難どうする？ワークショップセミナー in 加古川」にSEEDS Asiaの職員が講師として参加しました。同イベントでは、防災の基本的な概念と共に、加古川市が提供しているハザードマップを共有した上で、実際にまちあるきをしていただきながら地域の歴史と自分のまちを知ることが災害への備えにつながっていくことを体験して頂きました。

2018年の夏、関西を含めた西日本は地震や台風など、多くの災害に見舞われました。しかし、ほとんどの自治体ではペットの同伴避難はおろか、同行避難(ペットと避難所に向かうものの、人間の居住空間とは別の場所で安全を確保する)ですら環境が整備されていないのが現状です。同イベントに同じく講師として参加されていた、ペットサロン経営でありペット同行避難認定講師でもある國田先生からは平時から同行避難を見据えたしつけのありかた、準備すべきもの、ペットサロンとの連携など、飼い主によるペットの災害対策は必須となっていることが紹介されました。

●ナバーゴン村へ学校家具と共にメッセージビデオを送ろう！



ナバーゴン村について学ぶ丹波市立青垣小学校の生徒たち

11月26日、丹波市立青垣小学校6年生を対象として、先日搬出した学校家具や黒板の届け先であるミャンマーのヒンタダ地区ナバーゴン村の状況について紹介しました。同小学校は、11月8日に黒板を寄贈した廃校・旧遠坂小学校に通っていた児童を含む4つの学校が統合された学校です。この日は、子どもたちが使用していた机や椅子、黒板がどのような場所で使用されていくのかを見てもらいたいと校長先生に申し出たところ、ご快諾頂き特別授業として6年生を対象に実施する運びとなりました。洪水の被害や老朽化した旧校舎で学ぶミャンマーの子どもたちの様子を見て驚きながらも「こういう環境でも勉強を頑張っていてすごいなと思った」という感想や、新しい学校を見て一安心し、「新しい学校ができてよかったと思った」と、感想を述べていました。ナバーゴン村の子どもたちに向けて、4つのトピック(①自分の学校

②自分のまち ③どのように災害に備えているか ④どんなふう机と椅子を使ってほしいか)、それぞれ4班に分かれてメッセージビデオを撮影し、「ミンガラバー!(ミャンマー語でこんにちは)」と元気よく挨拶しながら、学校や丹波市青垣の特長を紹介し、「これから大切に使ってね!」と述べていました。このビデオレターはP4に記載の通り、ナバーゴン村での引き渡し式にて披露されました。この場をお借りしてご協力頂いた青垣小学校の校長先生、みなさんに御礼申し上げます!(尚、児童の顔写真は全て学校・保護者の許可済のみ掲載しています)

お知らせ

●ご寄付を頂いたみなさまへの御礼

ミャンマーのナバーゴン村小学校の建設につきまして、皆様からの温かいメッセージと共にご厚意を賜り、誠にありがとうございました。1月末までに、日本側で528,000円と2,000ドル(223,000円)、ミャンマー側で5,640,000ミャンマーチャット(415,000円)、総額1,166,000円のご厚志を頂きました。皆様からの温かいご支援のおかげで、身体が不自由な方々の学校兼シェルターへのアクセスが確保され、けが人搬送もスムーズにできるスロープが完成いたしました。加えて、ヒ素の多い地域であるため、一部を安全な飲料水の確保のために深井戸の掘削費に充て、安全な飲料水を確保することもできました。皆様のご支援とご協力により、ミャンマーの洪水常襲地帯における学校兼シェルターのモデル校の整備ができましたことを、ここにご報告と御礼を申し上げます。



校舎の建設が完了したナバーゴン村の学校兼シェルター

今後も学校兼シェルターの機能強化と災害につよい村づくりに向けた人づくりを行って参ります。これからもナバーゴン村の子どもたちや村の様子をお伝えいたしますので、引き続きどうか温かい応援をよろしくお願い申し上げます。まずはこの紙面をお借りして深くお礼申し上げます。

●インターン生の紹介

本部事務所（竹田 未来）



初めまして。関西学院大学人間福祉学部2回生の竹田未来（たけだみき）と申します。2～3月の間SEEDS Asiaさんでインターン生としてお世話になります。大学では社会起業学科に所属しており、日本や世界が抱える問題（ホームレス、障がい者雇用、過疎、アジアの国々の貧困や女性差別など）をいかにして解決していくのかということにフォーカスをあてて学習しています。

昨年4か月間語学留学でカナダに滞在していたこともあり、国際的な分野に興味があります。また災害復興支援にも関心があり、熊本地震の被災地でのボランティア活動や西宮市で開催された防災イベントに参加してきました。

自分のもつ知識や経験を活かして精一杯頑張ります。SEEDS Asiaのスタッフの皆さんと活動するのがとても楽しみです。宜しく願い致します。



Bangladesh

Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh

【JICA Grassroots Technical Cooperation Project】

●DRR Initiative by Youth Club Changes a Community

One of the communities SEEDS Asia works with in Dhaka is a youth club that consists mainly of junior high school to university students. The youth club is based in Kha Para area in Ward 17 of Dhaka North City Corporation. Formed in 2013 primarily to fight against drug use among youth, the club has been engaged in various activities such as organizing sport events and cleaning mosque. The club has worked with SEEDS Asia on community based DRR since 2017 and has conducted town watching, debate competition on DRR, setup an information boards with an important emergency contact list, etc. in their locality. These activities have elevated the youth club's visibility within the community.

The leader of the youth club has proactively participated in networking meetings with other DRR communities in the city. Unlike the youth club, the other DRR communities are based on registered citizens' group, or society. The youth club leader learned challenges the societies face in their respective communities, management strategy, and the government's registration system as a society. Learning from those societies, the youth club had tried to form one in Kha para area and get it registered, promoting the idea to leaders and adult members of the area. Having witnessed good works done by the youth club on DRR, the local leaders finally agreed to establish a Kha para society to make the area better place to live and to extend support to the youth club for their DRR and the other activities. Kha para society decided to work on waste collection issue in the area to start with. The youth club demonstrated a great example of how the young ones can bring a change to a community and how DRR can be the catalyst in such positive changes.



Youth club of Kha para area

●Model Communities' Activities Continue and New Communities Join!



The new DRR community in Kallyanpur making a map after their town watching

Since the DRR leader training in June 2017, the model communities have continued implementing their action plans. To introduce some of the recent ones, in Monipuripara community in Ward 27, DRR leaders conducted sessions on fire prevention and firefighting for small restaurant owners and employees as there are many such restaurants in the area that use gas stoves all the time and the dry winter air increases the risk of fire. Because it's difficult for those small scale restaurant owners to leave their restaurants for a several hours, the session was given on sites as the DRR leaders visited the place to another in their area. The on-site DRR sessions were very effective to raise fire disaster awareness in the community and urge people to take actions as we saw that some restaurant owners voluntarily purchased fire

extinguishers after the session. Also, the Badda community in the Ward 21 distributed their hand-made awareness leaflets at the community mosque after prayer on Fridays.

Like these cases, DRR communities in Dhaka continue unique DRR activities based on the situation and needs of their respective communities.

Great news is that two more communities joined us as new DRR communities! One of them is a house owners' association from the Ward 11 Kallyanpur area that took interested in community DRR through their neighbor, one of the DRR model communities, and the other is an apartment owners' group from Ward 1 Uttara area that got to know about the community DRR initiative through DNCC's newsletter "Nagoria" which was issued in July 2018 with SEEDS Asia's technical support. The Kallyanpur community was established in 1991 to ensure safety in the area. Young members will be the main actors to start DRR in the community. On the other hand, the Uttara community is a totally new as people have just moved in to the brand-new apartments in a recently developed bed town in the periphery of the city. They aim to make the housing complex fire free as more and more people are going to move in shortly. With the two new communities on board, community DRR in Dhaka is gradually expanding!



India

Project for Participatory Community–Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

【 Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA) 】

● DRR Awareness Campaign and Trainings were Conducted

DRR awareness campaign and trainings were conducted in Varanasi City from November to December. At the campaign, the DRR mobile application “Be-Safe” developed in this project and Citizen DRR Activity Promotion Centre (DRR-CAP) which opened in December were introduced with an explanation of basic concept of DRR and simple practical trainings conducted by NDRF (National Disaster Response Force). Parents of the students from Climate School (CS), society members, teachers and students who participated in the training for the first time gathered at CS and paid attention to the presentation. At each CS, their initiatives on DRR and what they learned from the Japan Study Visit in 2017 were shared. Sant Atulanand Convent School introduced how elementary students in Kyoto were cleaning the campus by themselves and experienced to plant for each. Moreover, one of the teachers of the school showed her full achievements of her action plan which was 1) Establish of DRR Learning Corner in school; 2) Separate dustbin for wet and dry; 3) DRR education with parents and society, with the support of another in-charge teacher along with full understanding of the director and the principal.

Meanwhile, the trainings for the citizens: 1) workers of Diesel Locomotive Works (DLW) and their families; 2) members of Rotary Club Varanasi Sunshine; 3) principals and teachers from 50 private schools, were conducted in cooperation with NDRF. Practical sessions such as CPR training were provided by NDRF, the basic concepts of DRR and the serious circumstances of air pollution in Varanasi were explained by SEEDS Asia.

● Citizen DRR Activity Promotion Centre (DRR-CAP) was Inaugurated and Final Workshop was Held

On 20th December, final workshop for participatory community based DRR approaches in Varanasi was held to conclude SEEDS Asia’s 3-year project on community based DRR and DRR education. Communities, schools, brand ambassadors, and NDRF who were actively involved in the work attended the workshop and reconfirmed the importance of DRR while looking back the wonderful 3 years. Mr. Sahi, Vice Chairman of the State Disaster Management Authority, Uttar Pradesh and Mr. Kiyose, Councilor, Embassy of Japan attended as honorable chief guests. On the same day, DRR-CAP was officially inaugurated. Visited the center, Mr. Sahi requested to share the posters so that he can utilize them in all over the U.P States. The feature of this facility is the 3-D model of Varanasi City. NDRF and Varanasi District plan to display the locations where people can evacuate at the time of disasters on the 3-D model. Moreover, NDRF plans to introduce DRR-CAP into their training programme for the students and citizens to enjoy learning DRR.



DRR-CAP inaugurated in December

● Final Workshop was Held in Delhi



Dr. P.K. Mishra (right) and H.E. Mr. Kenji Hiramatsu (left) at the final workshop

The final workshop to conclude SEEDS Asia’s 3-year project was held in Delhi on 21st December. Dr. P.K. Mishra, Addl. Principal Secretary to Prime Minister; and H.E. Mr. Kenji Hiramatsu, Ambassador of Japan to India attended the workshop. They shared their words regarding the importance of community based DRR, India’s initiatives for DRR and Japan’s assistance in DRR to India. Ms. Ashoo Kalra, a member of Benares Club gave a presentation on her initiatives on DRR as a representative of the citizens. Mr. Alok Kumar Singh, Deputy Commandant of 11 NDRF also delivered a statement about the environment surrounding DRR of Varanasi and NDRF’s initiatives. The workshop was closed with remarks of Dr. Kamal Kishore, a member of National Disaster Management Authority (NDMA) mentioning the SEEDS Asia’s initiatives in Varanasi and his vision for the future.

The project is concluded on 14th January after 3-year run. SEEDS Asia would like to take this opportunity to express sincere appreciation to the Embassy of Japan in India and everyone who always cooperated and supported the project.



Myanmar

Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township

【 Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA) 】

● Construction of School cum Shelter has been Completed, Handing-over Ceremony

The construction of school cum shelter in Nabekone village, Hinthada Township has been completed and the handing over ceremony was held on 16th December. Dignitaries of Ayeyarwaddy Region and Hinthada Township attended the ceremony and extended their congratulations on its completion. Mr. Iwase, the second secretary of Embassy of Japan in Myanmar also participated and celebrated it with good wishes. At the ceremony, a video message from the students of Aogaki elementary school, Tamba City was shown to introduce 100 donated school desks and chairs, and five black boards from the students. At the opening ceremony with ribbon-cutting, a lot of colorful balloons were released and the crowd was filled with immense happiness. At the end of the ceremony, the principal of the school and the village head extended their gratitude, and a girl called Ms. Ma Ye Ti Ko Ko, a grade-4 student expressed her appreciation on behalf of all the students. She mentioned the old school building was used to be closed-off due to inundation in rainy seasons, and told how happy she felt because of the completion of new school building. Please watch the video of the ceremony at: <https://www.facebook.com/206338119398923/videos/1174851619336076/>



Group photo at the handing-over ceremony

● 9th DRR Training Workshop: Household Survey for Evacuation Plan and Completion of DRR Map



Making the village DRR map

The construction of school cum shelter has been completed now but still there are things to learn for utilizing the shelter effectively as, space and supply are limited at the shelter. Through the 8th workshop, Nabekone village DRR committee members learned necessity of the list of persons in special need at times of disaster and sharing the list in the community. At the 9th workshop, the DRR committee members and SEEDS Asia staff visited every household in Nabekone village and input the detail information of each household for prioritizing the space for the most vulnerable houses. The information will be kept and managed as household cards to utilize evacuation plan. Additionally, the final DRR map which provides more advanced information than the one made at 2nd workshop such as: the record of housing types, heavy flood in 2015 and 2016, the spots where drink water can be caught and toilets can be used has been almost completed.

● 10th DRR Training Workshop: INEE-International Network for Education in Emergencies and Sphere Standards

Myanmar is a country built with a spirit of mutual help in difficult times. World Giving Index published by Charities Aid Foundation (UK) annually says that Myanmar has hold the top for three years from 2014 to 2017 in the world.

When disasters occur in Myanmar, a lot of donations and volunteers gather in affected area from all over the country. However, once contributors give them the goods what they want to, it sometimes causes mismatch between supply and demand. Moreover, schools need a plan to ensure the access to education even in flood season, and avoid the delay of resuming classes in emergencies when the school also plays a role as a shelter. SEEDS Asia introduced the standards of education in emergencies called INEE and the minimum standards in humanitarian response called Sphere to improve the school's response in times of disaster. Sphere is a set of minimum standards to explain what people in need really require to keep their dignity, not what contributors want to give when we support someone. At the workshop, points of humanitarian charter and four elements of Sphere: Water Supply, Sanitation and Hygiene Promotion; Food Security and Nutrition; Shelter, Settlement and Non-Food Items; Health Action were focused, and simple animation video and handout were introduced to develop their further understanding. As for the standards of education in emergencies, school decided to develop an education continuity plan with learning the elements. Participants commented, "Learning the standards of distribution of supply, and positive and negative aspects of the school-cum-shelter will help us when it's hard to make a decision in times of disaster."



Philippines

Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

[JICA Grassroots Technical Cooperation Project]

● Safety Inspection

In order to lessen the impact of disasters to school, school activities in peace times is quite essential. With that in mind, SEEDS Asia conducted safety inspections with pilot schools from October to November, using a check list crafted by each pilot school. All pilot areas except two completed a safety inspection. Department of Education (DepEd) Division Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) Coordinator, Engineer, Local Government Unit (LGU) DRRM Office, community, Philippine National Police, Bureau of Fire Protection, Parent-Teacher Association also participated in the respective inspections. Stakeholders gave a critique to the checklists after the safety inspection. A DepEd Division DRRM Coordinator said: “Even most of the school buildings need to be replaced and repaired, yet simple initiatives for safety can be done by the teachers.” The schools will further improve their safety inspection checklists based on comments by the stakeholders, which is going to be published as a first edition. Introductory meetings, regular safety inspection manual workshops and manual critiquing have been conducted so far, whose learnings have been incorporated by each school in their manual drafts and revisions. First edition of the manual will be utilized in future regular safety inspections, and planning and implementation of safety measures. The final edition will be printed at the end of this project.



Safety inspection

● Year-End Assessment and Action Planning Meeting



Year-end assessment and action planning meeting

On December 13th, SEEDS Asia together with Cebu Provincial DRRM Office organized a year-end assessment and action planning meeting in Cebu City. In total, around 30 people participated from DepEd Region 7 Office, pilot schools, pilot division offices, and LGUs from 10 pilot areas of the project. Each participant presented achievements of their school DRRM of the year, shared challenges with other participants, and discussed improvements for the coming year. Pilot schools told that they “will attend community sessions, give awards and recognitions to gain commitments of stakeholders”. DepEd Division DRRM Coordinators said that they “will institutionalize the programs and activities not to disrupt classes.” LGUs told that they “will properly coordinate to improve communication with schools.”

● Meetings with Schools Division Superintendents

SEEDS Asia had meetings with Schools Division Superintendents (SDS) of DepEd Pilot Divisions from November to December. Japan Study Visit which will take place in 2019 was discussed. SDSs gave suggestions about its contents such as they “want to have interviews and focus group discussions for region, division, district and school levels”, “want to visit Hyogo Prefectural Board of Education (Hyogo BoE) and schools in order to witness sustainable DRRM initiatives”, “want to know the process of how Hyogo BoE established their current school DRRM”, etc. SEEDS Asia will finalize an itinerary based on given suggestions.



Meetings with Schools Division Superintendent



Japan

Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project

【Tamba City, Hyogo】

● Study Tour for Students of Kwansai Gakuin University

On 23rd November, students of a “zemi (seminar)” group from Kwansai Gakuin University visited Tamba for a study tour. Their research topics are mainly the environment and tourism, so their professor wished that the situations inside and outside Tamba City can be learned from different perspectives by the students.

In the morning, a harvesting activity of red beans was experienced in a disaster-affected farm which was damaged by the torrential rain disaster in August 2014. Some students born and raised in urban cities said it was their first time to experience harvesting some crops, while others mentioned that the activity reminded them of their grandmothers’ family farming. The weather was slightly cold, but many red beans have been harvested!

In the afternoon, the group visited a local community leader to hear about their initiatives of community-based forest management. The leader served the group with hot sweet potatoes and peanuts while talking about the history of their community and various topics. The meet-up was also attended by members of the “Tamba City Ki no Eki Project (Wood Station Project)” of which the community is a member. Those members shared episodes of why they had realized the significance of forest management, which definitely made the students feel that the relation of people with forests is not something totally irrelevant to them.

The professor of the zemi was keen on regularly incorporating Tamba City study tour into his program from next academic year. He proposed that an orientation for briefing about Tamba City can be also set in the program in earlier semesters of the yearly schedule, for effective visits. This is a great chance of inviting many more students to know the greatness of Tamba City!



A restaurant owner of Tamba City explaining the lunch made with local products

● Video Shooting of Tamba City Study Tour

On 23rd of December, our study tour program was held with a small group, and the tour was shot in video for prospective visitors. On this day, a walk in the woods and seasonal activities such as straw rope-making and rice cake pounding (traditional activities for winter in Japan) were provided. We hope this video will make its audience feel the lovely atmosphere of winter Tamba.

Link to the videos is as follows (English version will be released soon):

[A Walk in the Woods version] <https://youtu.be/4ndrGTBEzv4>

[Straw Rope-Making and Rice Cake Pounding version] <https://www.youtube.com/watch?v=umK96HjPHzA>

Where is Tamba?



SEEDS Asia’s partners are in Tamba City, Hyogo Prefecture. However, people often say “Oh, I have been to Tamba-Sasayama” or “I recall it is part of Kyoto Prefecture.” They are not wrong, but neither is the same area as Tamba City.

The name “Tamba” used to mean a very broad area, including mid-east of Hyogo Prefecture, mid-Kyoto Prefecture and a small part of Osaka Prefecture of now. This broad area got divided into three parts (Tamba, Tajima and Tango) in Nara era, and some areas of the Tamba parts were later merged into Kyoto Prefecture and others into Hyogo Prefecture. Two districts (‘gun’s) that became part of Hyogo Prefecture were Taki-gun and Hikami-gun, which respectively formed Sasayama City and Tamba City in the past few decades.

In short, the name “Tamba” covers quite an extensive area. In fact, Sasayama City is working on renaming the City as “Tamba-Sasayama City” in May 2019, which implies that a diversity of culture, products and services are offered more with the name “Tamba”. Study tours will be conducted to spread the values of Tamba City among that variety.

Hyogo Prefecture Website https://web.pref.hyogo.lg.jp/tnk11/tanba/zatu_kuni.html (accessed on 22nd January 2019)

Daitamba Tourism Promotion Committee Headquarters “Marugoto Daitamba” <http://marugoto-daitamba.jp/%E5%A4%A7%E4%B8%B9%E6%B3%A2%E3%81%A8%E3%81%AF/> (accessed on 22nd January 2019)

Delivery Lecture

●Kobe Ueno Junior High School “What is international cooperation?”

On 2nd November, SEEDS Asia gave a lecture on “What is international cooperation?” to 180 students in the 3rd grade of Kobe Ueno Junior High School. The subject seemed new to most of the students and the comments they left shown us their curiosity and ambition for the future: “The world moves forward because of someone who goes to the abroad to help someone. I hope more people care about other countries not only themselves.”, “I want to learn some more about international cooperation, so I will search about it on my own.”, “I want to go beyond borders and help people in need.” It was a pleasure to have the opportunity to share about the present situation of the world and international cooperation with youths who will lead this world in the near future. SEEDS Asia would like to express our gratitude to Kobe Ueno Junior High School for this opportunity.

●“Forum on Safety of School and Community for the Future” in Miyagi

On 22nd November, SEEDS Asia introduced our project at the programme “Wide Vision Talk -work closely with related authorities and the world towards rich DRR education-” in “Forum on safety of school and community for the future” held in Iwanuma civic center, Miyagi. The forum has been organized in cooperation with the Miyagi Prefectural Board of Education and IRIDeS (International Research Institute of Disaster Science) of Tohoku University for the teachers of Miyagi to share their knowledge and experiences of DRR education every year since 2015. At the forum, SEEDS Asia introduced the DRR education with different approaches according as the circumstances of each country in Asia after the explanation of diverse cultural and social backgrounds of Asian countries, and the difference in the way of thinking and response to disasters from Japan.

●Workshop Seminar “How to evacuate with your pets?” Organized by La Shicu

On 24th November, an importer/distributor company who sells pet-related products and Myanmar goods, La Shicu organized a workshop seminar in Kakogawa City, Hyogo with the theme "How to evacuate with your pets?", where SEEDS Asia was invited as a speaker. This seminar was about learning the basic concept of DRR; knowing municipal hazard maps; and town-watching to better understand the community which lead to disaster preparedness.

In the summer 2018, West Japan including Kansai Region experienced a lot of earthquakes and typhoons which brought about great devastation. However, many local governments have not established a system to accept evacuation of pets in separate facilities from humans, much less in the same facilities. Another lecturer who is an owner of a pet salon as well as a certified instructor of evacuation with pets, introduced how to regularly discipline pets in view of evacuation in emergencies, what to prepare, and how to collaborate with pet salons: all the episodes showcased that disaster countermeasures for pets is required from their owners.

●Let' s Send a Video Message to Nabekone Village with School Furniture!



Students of Tamba City Municipal Aogaki E.S. leaning about Nabekone Village

On 26th November, SEEDS Asia visited Tamba City Municipal Aogaki E.S. to introduce to the 6th graders the situation surrounding Nabekone Village in Hinthada Township, where the school furniture from former Tozaka E.S. is presented to. Aogaki E.S. is a new school established as a result of merger of four schools including former Tozaka E.S (please refer to https://www.facebook.com/pg/SEEDS-Asia-206338119398923/photos/?tab=album&album_id=2233729616659753 about carrying out the furniture).

Today's session was realized when SEEDS Asia suggested to the school principal that how the desks/chairs and blackboards that the children used to use are going to be utilized in Myanmar be explained to them. The principal warmly accepted the offer by providing an opportunity of a "special class" for the school's 6th graders. Shared to the students were the flood impact to and deterioration of the former school building of Nabekone E.S., which made the students astonished as well as say "It is admirable that the students in such an environment are striving with study". Upon seeing the newly constructed building, they also said "I am glad a new building is about to be completed".

Upon seeing the newly constructed building, they also said "I am glad a new building is about to be completed".

Lastly, video-shooting was conducted to record four different topics of messages for the children in Nabekone Village: 1. About my school; 2. About my community; 3. How I am prepared for disasters; and 4. How I want the furniture to be used. Each of the topic groups greeted "Mingalaba (Hello in Burmese)!" and introduced about their school and town as well as a message of "please take care of the furniture well". Upon arrival of the school furniture in Nabekone Village, a responding video letter will be sent from the people there.

Announcement

●Appreciation for the Contribution

SEEDS Asia would like to take this opportunity to express sincere gratitude and appreciation to all supporters who contributed to the construction of the school cum shelter in Nabekone Village, Myanmar. A total of JPY 1,166,000 contribution: JPY 528,000 and USD 2,000 (JPY 223,000) from Japan; and MMK 5,640,000 (JPY 415,000) from Myanmar has been raised by the end of January. The temporary shelter with the ramp to ensure the access to the shelter for disabled people, and make transportation to the hospital smoother has been completed with the supporters' great contributions. Moreover, a deep tube well was dug to ensure the access to the safe drinking water with a part of the contribution since arsenic-affected water is detected in this area. The construction of a model school with a shelter in flood-prone area in Myanmar would not be completed without the supporters' cooperation and support.

SEEDS Asia develops human resources to make resilient village with utilizing the school cum shelter as the next step. Please follow the reports from Nabekone Village delivered continuously. SEEDS Asia deeply appreciate your continuous warm support. Once again, we heartily thank you to all supporters.



Completed the construction of the school cum shelter of Nabekone Village

●New Internship Student

Kobe Headquarters Office (Miki Takeda)



Hello. I'm Miki Takeda. I'll work as an internship student at SEEDS Asia in February and March. I'm a sophomore of Kwansai Gakuin University and major in Human Welfare Studies. In my major, I study many kinds of problems (such as homeless, employment of people with disabilities, depopulation and discrimination against women in Asian countries) which happen in Japan and around the world.

Last year, I stayed in Canada for four months to study English, so I'm interested in international circumstances. Besides, I have an interest in the field of disaster. I have joined volunteer work in Kumamoto after the big earthquake and disaster prevention event held in Nishinomiya.

I'll do my best by using my skills and experiences. I'm excited to work with members here. Thank you in advance.